

福井大学学術交流協定校への派遣留学（交換留学）月例報告書（4月）

氏名：白越 明

留学先：ルーマニア・アメリカ大学

<春のルーマニア>

こんにちは。4月分の報告書を今ルーマニアから書いています。3月後半、4月は待ちに待った春というような、ポカポカした、とても暖かい天気でした。少し外を歩くと、あちらこちらに綺麗な花が咲いていて心がほっこりします。しかし、すぐに30℃ほどの気温になるようになり、今はもう福井の夏のような暑さです。4月の終わりでこの暑さなので、夏のことを考えるととても恐ろしいです（部屋には、冷房設備はなく、窓にアルミホイルを貼っています笑）。そんな中、最近の楽しみは公園に行くことです。公園といっても、大きな湖の周りに木々や花などの自然がある公園のことです。日本で公園というとお年寄りが行くというイメージがあるかもしれませんが、ルーマニアの公園は若いカップルのデートコースとしてもよく使われ、少し涼しくなった夕方には子供からお年寄りまでたくさんの方が散歩しています。季節や花などの自然を感じ、楽しむのが、ルーマニアの人たちの国民性のような気がします。今回は、大学での授業のことを詳しくお話したいと思います。



－Romanian-American University での授業－

私は、ルーマニア・アメリカ大学のインターナショナルビジネスの学部に所属しており、Erasmus の交換留学生である私はインターナショナルビジネスの1年生から3年生、そして院の授業も取ることが出来ます。それらの授業は英語で開講されており、それらの授業を取る生徒もルーマニア外からの生徒がほとんどで、ルーマニア語よりも英語を得意とする学生達です。ヨーロッパからの留学生が多く、他にはナイジェリア、エジプトなどからの学生もいます。アジア人はここでは圧倒的にマイノリティです。みんなの共通語は英語になりますが、みんな同じ国出身の人と話すときはそれぞれの母国語で話すので、いままで耳にしたことのないような様々な言語を聞いておもしろいです。ここにいると、やはり英語はコミュニケーションを取るための手段なのだということを強く感じます。英語がなかったら決して関わる事がなかった人たちと、英語があるおかげで繋がる事ができる。“英語”というツールを持つだけで、世界はこんなにも広がるのだと日々実感しています。そして、もっと日本語を話すみたいに英語が話せたら、もっと出会う人々と深い関係が築けるのだろうなと思ってしまいます。タラレバの話をする前に、もっと英語を上達させる努力をしなければなりません…

授業は、1 semester がさらに1 module と2module (福井大学でいう1クォーター、2クォーターのようなもの)に分かれています。そして、1 module と2module では取る授業が異なります。現在は、1 module が終わり2module の授業が始まったところです。始めということもあり、1 module は1年生や2年生の基礎的な授業を取っていました。2module では、3年生の授業1つと院の授業を2つ取っています。これは来る前から想定出来ていたことですが、やはり感じるのは英語力の差と発言力の差です。特にビジネスなどの専門的な授業のなかで、先生や他の生徒が言っていることをほぼ100%理解する、そして自分の意見をその場で述べるというのはかなり難しいです(正直日本語でも難しいこともあります…)。分からない単語は授業中すぐにノートにメモして、あとで調べるようにします。始めて見るビジネス用語なども同じようにメモし、授業後日本語でその意味を検索し、頭に入れたりします。将来、仕事上でマーケティング戦略や貿易の法律などについて英語で話ができるようにはまだまだ自分の英語力は程遠いです。ただ授業に出席し、テストでいい点を取り、いい成績を取ろうとするのではなく、しっかりと自分のものになる勉強をしたいと思いません。

夏休みまであともうすぐ、ますます暑くなってきますが、だらけずに頑張りたいと思います。



ルーマニア人の友達2人と、日本人の友達と一緒に Cismigiu Park に行って、ボートに乗ったときの写真。